



すぎ七

杉並区立杉並第七小学校

校長 齋藤 瑞穂

TEL 3392-6328

FAX 3393-7536

平成30年 9月 3日 No. 492

地球の悲鳴

校長 齋藤 瑞穂

杉七小に子供たちの元気な声と笑顔が戻ってきました。2学期のスタートです。少し日焼けして、少し背が伸びて、たくさんの楽しかった夏休みの思い出を心に刻んで、どの子も2学期の学校生活へ期待を膨らませていることでしょう。子供たち一人一人がそれぞれの力を思う存分発揮し、さらに輝くことができる杉七小であるよう、今学期も教職員一同、精一杯努めてまいります。ご理解・ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

さて、それにしても今年の暑さには閉口しました。本校でも1学期中から、子供たちの安全を最優先に、校庭での遊びや体育を見合わせたり、終業式を校内放送で行ったりと対策を講じてきましたが、まさか暑さのためには夏季水泳指導を中止しなければならなくなるとは思ってもみませんでした。この暑さへの対応は、2学期に入ってもしばらく油断できません。運動会の練習等も始まります。これまで同様、細心の注意を払ってまいります。

また、全国的には、集中豪雨や暴風、台風など、大きな被害もたらされた自然災害も多く、被災地の方々には心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

異常ともいえる猛暑、そして荒ぶる気象…地球の悲鳴のように思えてなりません。それと直接の関連はないのですが、今年の夏は環境問題について大きな動きがありました。6月にカナダで開催されていたG7（主要7か国首脳会議）で、プラスチックごみによる海洋汚染問題が協議され、具体的な対策を各国に促す合意文書が取りまとめられたのです。

残念ながら、日本とアメリカは署名しませんでした。国としての対策を前に、アメリカのシアトルでは、この7月から使い捨てプラスチック製ストローの使用が禁止となりました。それに呼応して、阿佐ヶ谷駅にもあるシアトル発祥の大手コーヒーショップが2020年までに世界に展開している全店舗でプラスチックストローの廃止を決め、さらに同じくアメリカの世界最大のハンバーガーショップ、また国内では都内に本社を置くファミリーレストランチェーン等がその流れに同調しました。地球環境を守ろうと民間企業が率先して行動していることを頼もしく思うと同時に、もはや待ったなしに環境破壊が進んでいることを実感させられた夏でもありました。

子供たちは未来を生きます。未来の地球を守ることは、子供たちの未来を守ることに他なりません。そのために私たち大人が、また子供たち自身が、今できること、しなければならないことは何か、真剣に考え、行動していかなければと強く思います。使い捨てのプラスチック製のストローやレジ袋を使わない、使っていない部屋の電気はまめに消す、ごみの分別をしっかりとするなど、一つ一つは小さな取り組みでも、誰もが継続して行えば、環境への負担を大きく減らすことができます。分かっているけれど面倒だ、とついつい疎かにしがちだったことも、子供たちと一緒にあらためて丁寧に見直していきたいです。

校庭に緑の芝生が戻ってきました。エコスクールとしての杉七小を、その意義を、今一度、子供たちに自覚させたいと思います。